



THE Y'S MEN'S CLUB OF

TOKYO HIGASHI

CHARTERED 1988

2015-2016 年度  
10月号  
NO. 313

〒135-0016 江東区東陽 2-2-20 東京 YMCA 東陽町センター内 TEL 03-3615-5568

強調月間

**EMC-E  
YES**

国際会長：Wichian Boonmapajorn(タイ) 主題：「信念のあるミッション」  
アジア地域会長：Edward K.W.Ong(シンガポール) 主題：「愛をもって奉仕をしよう」  
東日本区理事：渡辺 隆(甲府) 主題：「原点に立って、未来へステップ」  
関東東部部長：鈴木雅博(東京江東) 主題：「チェンジ！！」  
東京ひがしクラブ会長：鮎澤正和 主題：「変化と継続！クラブ一丸！！」

### 10月例会

と き 2015年10月8日(木)  
18:30~20:30

と ころ 東陽町センター「視聴覚室」

受付:野本多美子  
司会:高野真治

#### ☆プログラム

開会点鐘 会長 鮎澤正和  
ワイズソング/ワイズの信条  
会長挨拶  
ゲスト紹介

#### 入会式(菅野秋男氏)

司 式：鮎澤正和会長  
立会人：金丸満雄(関東東部会員増強主査)

#### 食前の感謝/食事

おめでとう誕生日/結婚記念日

#### ゲストスピーチ

「少年を取り巻く危険」

講師：大西美登里氏

(警視庁生活安全部少年育成課江戸川  
センター少年相談担当)

#### スマイル/各種報告

閉会点鐘 会長 鮎澤正和

### 熊本通信 ～くまもんレポート～

光永尚生

ご無沙汰しております。

熊本は、現在も阿蘇山の噴火は続いていますが大康状態です。屋久島方面から桜島、霧島、そして阿蘇山と続いていましたので私たちもどうなるかとは思っていますがこればかりは自然が相手ですので祈るばかりです。

先日、夏の短期間息子に会いに箱根に行きました。時間的制約があり東京には通過のみでした。失礼しました。次男が、大涌谷より下の宮ノ下温泉の「水の音」というホテルで働いています。宮ノ下からは遠いのですが、来客などには影響があったようなので応援もかねて妻といってきました。最近は少し持ち直しているようですがやはり自然には勝てないのだと思っています。あちらも心配ですし東京にも近いので気になっています。

九州では、阿蘇山のカルデラ爆発が万が一一起こると、我々だけでなく関東の皆さんにも被害が及ぶそうです。西風に乗り北海道以外が火山灰とっていました。

今年は、寒暖の差や茨城の被害など立て続けに起こりました。すぐに、茨城の宮田総主事には電話させていただきました。こちらでできる支援を行っているところです。

毎回のプリテンを拝見していて、いつもうらやましく思っています。最近、学校の副学院長と、公益財団法人の事業と施設の責任者など掛け持ちしている関係上、身動きが取れないような状態です。少し困っています。何とか、暇を創って上京して、例会に参加できるきっかけをと画策しているのですが。

長くなりましたが近況報告まで。

皆様には、くれぐれもご自愛のうえお過ごしください。

### ✠ 今月の聖句 ✠

『イエスは言われた。「では、皇帝のものは、皇帝に、神のものは神に返しなさい』』

—マタイによる福音書 第22章 21節—

### 9月例会

出席者 18名 ネット 1名  
会員出席数 9名 コメット 名  
在籍数 12名 ゲスト 8名  
(広義会員2名) メンシップ 名

会員出席率 90 %

### スマイル

9月  
15,010円

累計  
22,010円

### プルリング

累計  
kg

### 2015-2016 年度役員

会 長 鮎澤正和  
副会長 須田哲史  
書 記 森村 実  
会 計 野本多美子  
担当主事 花井雅男

## 9月例会報告

書記 森村 実

9月10日、18:30より視聴覚室にて、9月例会が開催された。今回は、関東東部部長の公式訪問となり、鈴木部長、小松書記、香取会計補佐、その他、会員部の濱口隆久さん、講師浦崎暁子さん(東京YMCA国際ホテル専門学校学生支援室長)、東風の会: 関登志子さんがゲストとして出席された。

鮎澤会長による開会点鐘、ワイズソング&信条、そして開会の挨拶。次に、鈴木部長のご挨拶「関東東部では既に7人の新規会員が集まっているので、今日から、各クラブでの会員獲得数を2名にしよう。」と喝が入り、「花井主任は高校の後輩。」との関係も披露された。その後、花井主事の食前の感謝により食事をしながら歓談後、今月の誕生日である金丸メネット(22日)、本日の講師浦崎暁子さん(24日)お二人を、ハッピーソングでお祝した。

食事後、講師としてお招きした浦崎暁子さんより、「東日本大震災から学ぶ～東京YMCA国際ホテル専門学校の取組み～」に関する貴重なスピーチを頂いた。学生と職員と共に東日本大震災の被災地におけるボランティア活動を通じて、「おもてなし」の精神を学生が体現して成長する様子が手に取るように理解できた。こうした活動は、世界YMCA同盟がテーマである

「Empowering Young People」にまさしく通じる活動であると確信した。スピーチの趣旨は以下の通り。

### 【スピーチ趣旨】

東京YMCA国際ホテル専門学校に

て6年間仕事をしているが、YMCAに入社されて以来、ワイズメンズクラブとの交流を通じ、年齢を超えての大切さを学んできたとの自己紹介でスタート。

2011年3月11日の東日本大震災後、東京YMCAでは、石巻市に拠点を置き、物資輸送、子どもたちの世話等のボランティア活動を開始していた。国際ホテル専門学校としても何かできないかを検討の結果、行政の支援が届かない個人宅、小学校、民間施設にフォーカスし、以下活動を実施してきた。

- (1) 2011年7月 石巻市の個人宅の汚泥、がれきの撤去
- (2) 2011年8月 石巻市の個人宅の窓ふき、蛍光灯の掃除、風呂掃除。
- (3) 2012年2月 石巻市の県営住宅のガラス破片撤去、ペンキ塗り
- (4) 2012年7月 万石浦小学校のプールタイトルの張り替え整備
- (5) 2013年2月 石巻市内東京バプテスト教会石巻ベース管理公園整備他
- (6) 2013年7月 石巻市鮎川浜ホテルニューさか井施設整備、石巻市内老人グループホーム施設整備
- (7) 2014年2月 石巻市内東京バプテスト教会石巻ベース管理公園整備
- (8) 2014年7月 石巻市渡波仮設住宅施設清掃・整備
- (9) 2015年3月 石巻市鮎川漁港・牡蠣養殖仕掛け準備
- (10) 2015年7月 石巻市内百俵館開設施設拡充・整備

生徒と共に参加した(1)～(6)のボランティア活動を中心に、写真を投影しながら、現地の状況、生徒たちが感じた事を熱く語って頂いた。

一つのエピソードが紹介された。ある家の瓦礫やごみの片付けをしている時、何の変哲のない木の棒があった。学生が被災者に「捨ててもいいですか?」と尋ねると、「死んだおふくろが使っていた麵棒なんだ」と。被災者にとって、木の棒は、単なるごみではなく、大切な思い出の品であったと学生は手ごたえを感じる。こうして、被災者と会話をしながら、連泊して作業を継続することで、信頼関係が築かれ、深く繋がっていく。実際、ボランティア活動に参加した学生から先に就職の内定者が出ていったと言う。被災地での体験が面接官の心に響いたのかは未知数であるが、生徒が一人の人間として成長する大きな機会を与えたことは間違いないだろう。1935年に国際ホテル専門学校設立時、学生たちのミッションとして、「努めて旅人をもてなさい」という成句を掲げていた。その「おもてなし」の体現「Practice hospitality」、つまり、学生にとって、おもてなしを感じ取る場所が、まさしく、石巻市でのボランティア活動であったと思う。学校には300人の学生がいるが、こうしたボランティア活動に参加できる学生は少ないが、これからも継続し、自分の体験談を発信し、自分自らで行動を起こせるようになって欲しいと願う。

8月29日-30日に岩手県で開催された出光イーハートブトライアル大会に下名が初参加したので番外報告した。1977年から始まった同大会も今年で39回を迎えた。トライアル競技とは何か、トライアル競技の歴史、トライアルバイクの特徴、大会の様子を写真や動画を用いて報告。地元の住民が、我々に手を振って声援してくれたり、要所の休憩所では、子どもたちが、新鮮で冷えているトマト、すいかをもてなしてくれたり、とうふ田楽、ジュース、お茶等も頂いた。大会参加者である我々は、まさしく、地元の素晴らしい軒先をバイクで走らせて頂いた上に、笑顔と、おもてなしまで頂いている。これも39年間、継続している大会参加者と地元の方との信頼関係の賜物であろうが、地元のみなさんに何らかの恩返しをしたいと密かに想っているのは下名だけではないだろう。

飯田メネットの紹介により、菅野秋男さんが今日の例会を見学された結果、YMCAの活動に興味を持って頂き、当クラブに入会したい旨、表明があった。(10月入会式)

例会の最後に、10月に開催されるYMCAソフトボール大会に対し、クラブより花井主事に東陽町ウエルネスチームに支援金が手渡され、鮎澤会長による点鐘により閉会した。





## 東京ベイサイドクラブ1周年記念例会

鮎澤正和



関東東部で一番若いクラブ、否東日本区もしかしたら西日本区を含めても一番若いかもしれない東京ベイサイドクラブの1周年記念例会が、9月19日に彼らの地元である豊洲のCAFE;HAUSで開かれた。親クラブの東京江東、東京ひがし両クラブはもとより関東東部の各クラブをはじめ、東新部、あずさ部、富士山部からもお祝いに駆けつけてくれて、メン、メネット、コメットを合わせて65名を超える例会となった。第1部の記念礼拝では堺福音教会東京チャペルの北牧師が「種を蒔く人」のたとえから解りやすい示唆に富む話をされた。第2部の記念式典では工藤会長、東京YMCAの廣田総主事、関東東部の鈴木部長の挨拶に引き続いて4名の入会式が行われた。不肖私も親クラブの会長ということで立会人の榮に浴したが若いクラブに若人が集う、これからが楽しみな入会式だった。第3部は更に若さ溢れる祝会となり、おいしい食事おいしいお酒と共に話が弾んだ。メンバーも若くコメットも小さい子が多かったので夕方開会だったがとても楽しい時間を過ごすことができた。始まりが早いということは終わりも早いということで、あり余る時間をそれぞれが楽しく過ごしたであろうことは想像に難くない一日だった。

出席者：鮎澤、飯田、金丸、高野、沖(東風の会)



4名の入会式を行う工藤会長



お祝いに駆け付けたワイズの面メン

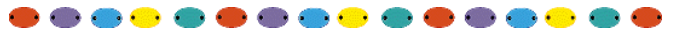
## チャリティーラン奮闘記

9月23日、第29回東京YMCAチャリティーランは、今回も木場公園で行われた。8時30分よりYスタッフとリーダー、そして、ワイズメンとボランティアにより、手際よくテント張り等設営準備が行われ、我々ひがしクラブも機材をテントに運び込んだ。フランク・水餃子・お好み焼きの準備も整い“さぁ！ど〜んと来い”

オープニングセレモニーの後、恒例になった子どもランは、昨年にも増して親子合わせ650人が参加。親子で楽しそうに1.3キロのコースを走っていた。今年はトヨタの協力で、参加の子供にミニチュアカーがプレゼントされた。本番チャリランを迎えた時間には会場には、多くの参加者・家族・応援者が集まり、模擬店コーナーも大忙し。にはん語学院の留学生担当のかき氷は行列が出来、我々のコーナーも10月入会する菅野さんも参戦し、好評にて惜しまれながら全て完売。お陰で東陽町チームを応援することが出来なかった。

東陽町センターからは、Tシャツ販売等募金活動により、今年も3チームがエントリー、深川消防署「TEAM #119」は惜しくも5位に終わり、他の2チームも健闘した。

早朝から参加したひがしの皆さん、模擬店コーナー責任者の沖さん、そしてグランチャ東雲加藤さんお疲れさまでした。



## YMCAコーナー

担当主事 花井雅男

▼9月5日(土)、『バングラデシュの子どもたちの教育支援』と『ネパール地震の復興支援』のため、恒例の国際協力街頭募金を、昨年までの渋谷駅周辺から新宿駅周辺に変更して実施した。会員、ボランティアリーダー、学生、留学生、メンバー、ワイズメンなど158人が、全力で気持ちをこめて呼びかけを行ない、総額171,411円が寄せられました。特に今年は日本バングラデシュ協会理事長ラーナー氏ご一家も参加し、インターナショナルスクールの生徒や山手センターの学生、ワイズメンたちと並んで声を上げて下さった。

▼1932年に始まった東京YMCAの代表的な少年キャンプ「野尻学荘」が今年で開催80回を迎え、また「野尻小学生キャンプ」が第20回となることを記念して、チャリティーコンサートが9月25日に霊南坂教会で行なわれた。本法人理事の飯靖子氏(オルガン)と、ご子息でヴィオラ奏者飯頭(あきら)氏が出演して行われた。会場には109名が訪れた。

▼「第29回東京YMCAインターナショナル・チャリティーラン」が9月23日、木場公園で開催された。65チーム420名のランナーが走り、昨年から実施している「こどもラン」には、幼児、小学生が約650名の親子が参加し、1.3kmを走った。運営協力のボランティア、保護者、応援者などと合わせると1800名が参加した。また多くの企業、団体からも協賛とご協力をいただいた。支援金660万円は障がいのある子どもたちの活動のために用いられる。

▼今後の主な行事予定

- ・会員部ソフトボール大会 10月12日(祝)  
(於：大宮健保グラウンド)
- ・ソシアスフォーラム2015 11月7日(土)  
(於：山手センター)
- ・東陽町コミ交流会 11月15日(日)  
(向島アイビーボウル)

### ★今月の誕生日

飯田歳樹メン(16日)

### ♥結婚記念日

奥峪 力・添子ご夫妻(2日)

森村 実・優子ご夫妻(6日)

須田哲史・由美子ご夫妻(8日)

